

日本精神分析学会第70回大会
演題申込要項

I. 日本精神分析学会が求める、精神分析的な実践としての質

演題に含まれる臨床実践がもたねばならない質は、設定、過程、考察という三つの構成要素から規定されています。

1. 設定

1-1. 個人精神療法・個人心理療法

- ・面接が規則的にもたれ、その頻度は週1回以上、面接時間は45分以上、寝椅子または対面法による面接（児童の場合はプレイセラピー）という外的構造に適合していること
- ・その外的構造が、実践場所の種類（病院、心理相談室など）を含めて明記されていること

1-2. 精神分析的理解に基づく応用的実践

- ・入院治療、集団療法、親ガイダンス、コンサルテーション・リエゾン、学校精神保健、産業精神保健、地域保健、アセスメント、災害支援、福祉領域などにおいて、その臨床実践の外的構造が明示されていること
- ・抄録のなかで、その実践が精神分析的である根拠が明示されていること

2. 過程

- ・精神分析的な理解を準拠枠として介入が行われたことが過程の記述のなかで読み取れること
- ・その介入により生じた、介入対象との交流およびその変化が明示されていること
- ・介入対象とは、個人精神療法・個人心理療法の場合は患者あるいはクライアント、精神分析的な理解に基づく応用的実践の場合は、介入の対象となるチームや家族、あるいは環境などを指します。

3. 考察

- ・考察については、①精神分析研究原著論文に相応する考察および②症例／事例研究、あるいは応用に相応する考察、の2つがある。
- ・精神分析研究原著論文に相応する考察においては、学問的もしくは臨床的主張の妥当性と独創性、先行研究との必要最小限度の照合がなされること。ただし、症例／事例研究あるいは、応用に相応する考察においては、学問的もしくは臨床的主張の妥当性は求められるが、独創性、先行研究との必要最小限度の照合がなされなくてもよい。

II. 演題応募の資格

演題の応募は、2024年3月3日の運営委員会までに正会員として承認された方に限ります。

III. 募集する演題カテゴリー

発表部門を下記に分けて公募いたします。なお、発表時間は以下のカッコ内を予定しておりますが、演題数や内容等により変更する可能性があります。

1) 一般演題（発表 20 分、質疑応答 20 分）

1-1. 個人精神療法・個人心理療法

1-2. 精神分析的理解に基づく応用的実践

- ・臨床素材を用い、その臨床実践は上記の I 項に適合していることが求められます。
- ・1-1 は症例／事例研究に相応する、1-2 は応用に相応する精神分析的観点からの学問的もしくは臨床的主張が求められます。

2) 指定討論演題（発表 30 分、質疑応答 30 分）

- ・臨床素材を用い、その臨床実践は上記の I 項に適合していることが求められます。
- ・精神分析理論および技法について、より高度で深い考察に基づく精神分析研究原著論文に相応する学問的もしくは臨床的主張を目的としていることが求められます。
- ・討論者は、発表テーマに応じて運営委員会が指定します。

3) 研修症例（発表 20 分、質疑応答 20 分）

- ・臨床素材は個人精神療法・個人心理療法に限られ、その臨床実践の外的構造が I 項の 1-1. に適合していることが求められます。
- ・研修の途上で症例に助言を受けるための発表であり、精神分析的観点からの学問的もしくは臨床的主張に基づく考察は不十分でもかまいません。
- ・臨床素材は 1 年以上継続的に面接が実施されたものであることが求められます。抄録には治療期間を明示してください。
- ・助言者は、運営委員会が指定します。

※研修症例には、学会認定精神療法医および学会認定心理療法士は応募できません。

※研修症例の PC 等による発表は不可といたします。

IV. 抄録の形式

1) 演題名の文字数は、副題も含め 30 文字以内とします。

2) キーワードを 3～5 個を設定してください。なお、キーワードは検索語としての実用性を考慮してください。

3) 本文の総文字数は 3200 字以上 4000 字以内です。演題名、キーワード、氏名、所属は本文の文字数に含まれません。

《注意》 文字、英数字、括弧は半角・全角にかかわらず一文字として数えます。

丸付き数字 (①) やギリシャ数字 (III) 等の記号文字 (機種依存文字) は文字化けする可能性がありますので、使用しないで下さい。

改行を意味する
などのタグは文字数には含みません。

詳細は、演題登録ページの注意書きをよくお読み下さい。

4) 演題の採否は、応募者の情報を伏せて審査されるため、本文中に発表者を同定しうる情報は記載しないでください。具体的には、発表者、共同治療者、スーパーバイザーの氏名・所属を指します。さらに、「第〇大会で発表した」という表現も、当該抄録集によって応募者の同定が可能になりますので、避けてください。

5) 採択の後、運営委員会より、演題名、キーワード、抄録の修正をお願いする場合があります。

V. 抄録の内容と構成

- 1) 発表の目的を簡潔明瞭に述べてください。
- 2) 目的を考察するために必要な臨床経験を述べてください。I 項の 1-1. においては、必ず転移および逆転移関係や治療者・患者（クライアント）関係の推移を明示してください。I 項の 1-2. においては、必ず具体的領域および外的構造における精神分析的理解の準拠枠や介入に基づく力動的推移を明示してください。
- 3) 「VII. 患者・クライアントのプライバシー保護に関して」との関連で、臨床経験で記載する情報は発表における必要性を慎重に吟味し、不要な情報を記載しないことを心がけてください。
- 4) 目的とした事項について臨床経験に照合して考察し、結論を述べてください。
- 5) 抄録は完結したものにしてください。したがって、「その後の治療経過を含めて発表したい」や「詳細は、発表当日に述べる」という抄録は、採否審査の対象外となり、受理されません。
- 6) 抄録は自然な日本語としての読みやすさに留意し、 unnecessary 略語（Th、Cl など）や不自然な記号（#、<、> など）の使用を避けてください。
- 7) 演題発表の際、絵画や描画等の画像資料以外は、基本的に PC 等の使用は控えてください。
- 8) 他学会や学術雑誌で既に発表したもの、もしくは発表予定のものは、原則として不採択になります

VI. 患者・クライアントのプライバシー保護に関して

- 1) 発表については、可能な限り患者・クライアント・チーム等の同意を得てください。
- 2) 同意が得られない場合は、発表者の責任において、患者・クライアント・チーム等のプライバシーに十分に配慮して抄録を作成してください。
- 3) 患者・クライアントを同定できる情報（人名、地名、職業、職場名、団体名など）の具体的記述は行わないでください。患者、母親、大都市といった表現やより一般的な名前で置き換えてください。たとえば、職業が症例の記述に必要かつ不可欠な情報である場合も、可能な限り、会社員、公務員、専門職などの一般的な名称を使用してください。年齢もできるだけ具体的な数字を出すこと避け、たとえば、小学校低学年、20 代後半、中年といった表現を用いてください。どうしても特定の名前を記述の必要があるときはアルファベットで置き換え、実際のイニシャルではなく、A 氏、B 市、C 大学というようにアルファベット順に命名してください。
- 4) 症例・事例の臨床実践が行われている施設、機関名を本文中に記述しないことは「V. 抄録の形式」の 4) に定めるとおりですが、演題が採択され抄録集に掲載される際には、発表者の氏名と所属が明らかになります。その際、本文中に「現在も治療継続中である」といった記載は、患者・クライアントの特定につながることがあります。その理由から、これらの記載は行わないでください。
- 5) 臨床実践の実施時期は具体的な年月を記載しないでください。治療開始後〇か月といった記載にしてください。具体的な年月をどうしても記載する必要がある場合には、発表において起点となる年月を「X 年 Y 月」などと表記し、その後の経過は「何ヶ月後、何年後（あるいは、X + 1 年 Y + 2 月）」などと記述してください。
- 6) プライバシー保護に十分な注意が払われていないと判断された症例は、不採択となります。

VII. 演題申込方法

- 1) 演題申込はインターネット (<http://www.seishinbunseki.jp/>) でのオンライン登録にて受け付けます。(上記 WEB サイトの「演題登録ページ」をご覧ください)
- 2) 受付開始：2024年4月1日(月)
- 3) 締 切：2024年5月8日(水) 正午

VIII. 応募演題の採否

演題の採否および発表部門は、6月上旬の運営委員会において決定し、結果は6月中旬に E-mail にて通知する予定です。

発表部門については、必ずしも申込みどおりではない場合があります。部門の変更に同意されない場合は、応募を撤回することができます。

【お問合せ先】 日本精神分析学会 事務局 演題受付係
〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町 KSビル 株式会社コンベンションリンケージ内
TEL : 03-3263-8697 FAX : 03-3263-8693 E-mail : jpa_am@c-linkage.co.jp